

消防団PR動画
「宮城県の消防団を始めよう。地域防災。」
を制作しました

— 消防団員確保のための若年層へのPR —

宮城県では、減少・高齢化している県内の消防団員の確保が課題となっていることから、市町村と連携して消防団の一層のPRを行うため、主に若年層へ向けた動画を制作しました。

報道機関の皆様におかれましては、動画と併せて県内の消防団の現状を報道していただくとともに、引き続き、消防団の活動、訓練の取材を通じて、団員確保に御協力をお願いいたします。

1 概要 ※イメージは別紙参照

全6種類。特に確保が必要な若年層（40歳未満）へ向けて、20代（女性・学生の団員）、30代（基本団員）が出演し、思いを伝えていただいている。

No.	種類	説明
1	総集編	広く県民向け。3人の団員（基本、女性、学生）及び消防団協力事業所代表者のインタビューを中心に、手書きアニメーション、ナレーション説明を交えた基本的な動画（3分35秒）
2	女性の団員編	女性・学生向け。総集編よりもインタビューシーンを長めに設け、出演している女性・学生の団員が伝えたいメッセージを多くしている動画（各1分35秒）
3	学生の団員編	
4	基本団員編	SNS（X、Instagramなど）用。短時間で消防団の雰囲気を紹介する短編動画（各18秒）
5	女性の団員編	
6	学生の団員編	

2 公開URL

(1) 県ホームページ

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/syobou/syobodanportal.html>

（併せて制作したパンフレット及びチラシも掲載）

(2) 県X（先月に開設した消防団PRアカウント）

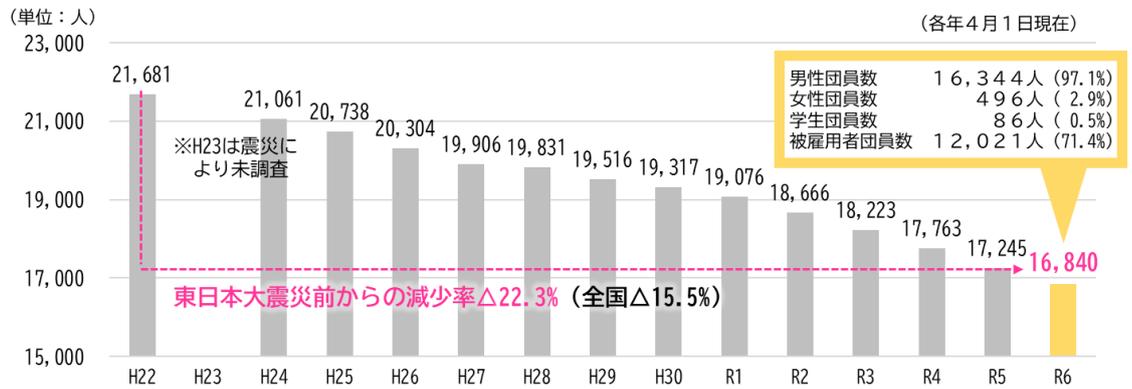
https://x.com/miyagi_syobou



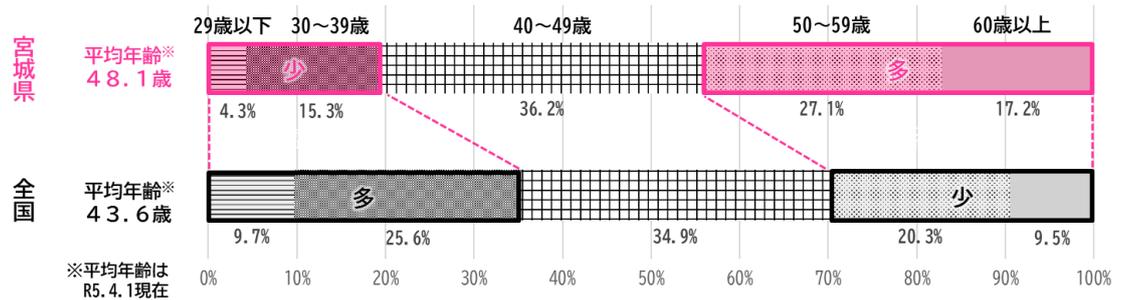
(参考) 宮城県内の消防団の現状等

(1) 宮城県内の消防団員数の推移

消防団数 42 消防団 (仙台市 7、塩竈市 2、その他市町村 33)



(2) 宮城県と全国平均の団員の年齢構成の比較 (令和6年4月1日現在)



(3) 消防団協力事業所

被雇用者は消防団員の約7割を占めており、職場の消防団活動に対する一層の理解と協力が必要となっている。勤務時間における消防団活動への配慮等に御協力いただいている事業所には表示証が交付され、その社会貢献により地域防災体制の一層の充実が図られている。



▲市町村による認定 (シルバーマーク)

●動画



●パンフレット及びリーフレット

activities 消防団とは何か

消防団は消防本部と同じ消防組織法に基づき、市町村が設置している組織です。消防団の歴史は古く、江戸時代の町火消しが今日の消防団の前身であるといわれています。阪神・淡路大震災での活躍で消防団の役割の重要性が再認識されるとともに、平成25年には「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、近年、消防団は益々地域防災に欠くことのできない存在となっています。

消防団員の身分

日常生活では会社員、自営業、学生などでも、団員としての活動時には、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として扱われます。

平常時
会社員、自営業、学生など

消防団活動時
非常勤特別職の地方公務員

消防団員の階級

副団長、警備係、自衛隊員より階級が認められています。具体的には団長、副団長、分団長、副分団長、班長、班員、団員の階級。入団時には団員からスタートし、活動期間が長くなると階級も上がるのが一般的です。

団長
副団長
分団長
副分団長
班長
班員
団員

消防団員の構成

幅広い方が参加できると、様々な役割をこなすことも可能です。すべての活動に携わり基本団員のほか、自身の都合に合わせて活動を限定して取り組む機能別団員として入団することもできます。

基本団員
火災予防啓発・広報活動や訓練などに参加する

機能別団員
火災予防啓発・広報活動や訓練などに参加する

消防団員の声

地元の神社の祭事に参加。地域防災のやりがいを実感。住居から車を助けられ、

機能別団員・機能別分団

「消防団に入団したいが、仕事や家族の都合ですべての活動に参加することは難しい」という方が多いと思います。そのような方も含め、より多くの人が消防団に入団できるように機能別分団という制度があり、県内では15の消防団に導入されています(令和4年4月1日現在)。

機能別団員は、火災予防啓発・広報など、特定の活動のみに参加する団員になります。県内でも機動性に優れたバイクを活用して情報収集などを行う「バイク隊」として活動する機能別団員もいます。

また、機能別分団は、機能別団員と同様に特定の役割、

消防団員の処遇

消防団員に対しては、仕事や家族の都合に基づき、労務に特化するために年齢制限・活動制限が設けられます。また、報酬の他にも公務災害補償や退職給付金が支払われます。

例
団員報酬 年間報酬 36,500円
活動報酬 火災発生時 2,000円(日・勤) など

年齢報酬 活動報酬

仙台市青葉消防団に基本団員として所属しています。入団したきっかけは、選挙で市内から出馬したい一人として消防団員として活動することを知り、これを見て団員の姿が地域を守っている姿に感動を受けて一緒に活動したいと消防団員と共に入団の申込みをしました。

入団後は訓練、防災発表、地域行事の警備活動などに取り組んでいます。定期的に行われる訓練は、火災や地震など様々な災害の対応になります。災害発生時にも消防団が第一線に対応できるように消防団員の役割は非常に重要だと、訓練を重ねています。また、春の火災予防運動期間中は地域を巡回するなど、地域住民の防災意識を高める活動もしています。

活動する中で消防団員と消防団員としての責任と役割をしっかりと果たすことが、大きな責任と誇りを感じています。また、消防団員としての活動を通じて、地域に貢献していることに誇りを感じています。また、消防団員としての活動を通じて、地域に貢献していることに誇りを感じています。

01 INTERVIEW

塩竈市塩竈消防団 基本団員 A・Sさん(19歳) 短大生

塩竈市塩竈消防団の基本団員として活動しています。入団のきっかけは、学校の友人から「地元の消防団に入りたい」と聞いて、その場で決意したそうです。消防団員としての活動は、地域を守ることに誇りを感じています。また、消防団員としての活動を通じて、地域に貢献していることに誇りを感じています。

POINT
目標は消防士として働くこと。救急士を目指しているため、消防士を目指している。消防士を目指しているため、消防士を目指している。

02 INTERVIEW

仙台市青葉消防団 基本団員 S・Sさん(24歳) 大学生

仙台市青葉消防団の基本団員として活動しています。入団のきっかけは、大学の先輩から「消防団に入りたい」と聞いて、その場で決意したそうです。消防団員としての活動は、地域を守ることに誇りを感じています。また、消防団員としての活動を通じて、地域に貢献していることに誇りを感じています。

POINT
地元の神社の祭りに参加。地域防災のやりがいを実感。住居から車を助けられ、